

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格 必修/選択	授業担当
旧約聖書研究	2		重富 勝己
[授業の目的・ねらい]			
<p>旧約聖書は律法（教えの書）や預言の書である前に、何よりも物語である。そして大きな主題（物語）のもとに、ひとつひとつの物語は注意深く構成されている。キリスト教に限らず信仰の祖として知られるアブラハムの生涯をテキストに沿ってしっかりと読み直したい。</p> <p>また、アブラハムへの約束（契約）が旧約聖書でどのような展開を遂げ、また新約聖書にどのように影響を与えたかなど、聖書神学的にも種々考察すべき点が多々あることも考慮したい。</p>			
[授業全体の内容と概要]			
<p>まず、「律法」としての五書および『創世記』と、その中の族長物語について概観する。</p> <p>その後、創世記12～25章のアブラハム物語のテキストを中心に、他の日本語諸訳と比較検討しつつ各章ごとに精読し、そのテーマと意義を考察する。そこから現代の教会への信仰的メッセージをとり出したい。また、文芸批評的読み方についてもできるだけ触れるようにする。</p>			
[授業修了時の達成（到達目標）]			
<p>聖書を読むということは孤独な知的作業である以上に、信仰共同体のダイナミズムの中で「物語」を追体験することでもある。その楽しさを知り、自ら聖書を読む方法論を獲得できるようになりたい。</p> <p>さらに将来、教会の諸集会でテキストの深いメッセージを取り継いで行くことができる備えとなればと願っている。</p>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1	科目のオリエンテーション - 旧約聖書における五書および『創世記』概論		
2	『創世記』における原初史（1～11章）および「族長物語」（12～50章）概論		
3	族長物語における「アブラハム物語」（創世記12～25章）概論		
4	創世記12章1～9節 - アブラハムの召命について		
5	創世記12章10～20節 - アブラハムの試練について		
6	創世記13章 - ロトとの別れにおける信仰的選択について		
7	創世記15章 - 聖書における「契約」伝承におけるアブラハム契約について		
8	創世記16章 - ハガルの子の意義。律法による子か約束の子か。		
9	創世記17章 - シナイ契約伝承とアブラハム・ダビデ契約伝承について。		
10	創世記18～19章 - ソドムへの執り成しとソドムの滅亡。審判の意義について。		
11	創世記21章 - 約束の子（イサク）の誕生の預言とその成就について。		
12	創世記22章 - ①約束の子イサクの試練。		
13	創世記22章 - ②約束の子イサク奉獻の意義。		
14	創世記23章～24章 - サラの死と埋葬。イサクの結婚による約束の継承について。		
15	創世記25章 - アブラハムの死と埋葬。族長物語の意味と新約聖書の意義。		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
『聖書』 - 口語訳、新改訳、新共同訳、その他諸訳をできるだけ、参照する。		授業出席およびミニ・レポートの提出、ブックレビュー等の日常点(3割)および学期末レポート(7割)を総合評価する。	

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格 必修/選択	授業担当
神学概論	2		塚本 恵
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>神学とは基本的には、キリスト者が礼拝し、栄光を帰する神についての省察と考えられる。そこで、この神に関する学問の領域について、キリスト教信仰の基本的な教理や概念を理解しつつ、組織的・歴史的に考察することを目的としたい。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b></p> <p>神学の方法、聖書論、神論、創造論、キリスト論、聖霊論、教会論、終末論などの各項目について言及する。そしてそれらについて、また現代の宣教との関連について、自由に討論できるようにしたい。講義を中心とするが、クラスでの質疑応答や討論が自由にできるようにしたい。また、一つの立場にこだわらず、広く問題意識を持つことが望ましい。</p> <p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b></p> <p>神学について、広く学んで、問題意識を鋭くして、自らの力で考えまた討論できるようにする。</p>			
<b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>			
1	序論 神学することについて		
2	神学の課題と方法		
3	神学の歴史 現代の神学者たち		
4	聖書論・正典論		
5	神論・創造論		
6	神論・三位一体論		
7	キリスト論 信仰と歴史		
8	キリスト論・贖罪論		
9	聖化論		
10	聖霊論		
11	人間の本性、義認論 ブック・レビュー提出		
12	礼典論		
13	教会論		
14	終末論		
15	全体のまとめ 神学を学ぶとは レポート提出		
<b>[使用テキスト・参考文献]</b>		<b>[単位認定の方法及び基準]</b>	
A.E.マクグラス『キリスト教神学入門』(教文館、2002年)。		課題に関する試験代用レポート (60%)、ブック・レビュー (20%)、および出席・質疑応答など (20%) とする。	

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格 必修/選択	授業担当																														
比較宗教学概論	2		崔 榮九																														
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>            宗教は非常に古い時代から存在し、病や死に遭遇する人間を慰め、どう生きるべきかの指針を与えてきた。現代でもこの役割をまったく失ったわけではないが、現在の日本では、宗教への関心や知的理解の要求は高いとは言えない。しかし実際は、世界各地で宗教が根強く存続し、政治を含め広く文化や生活様式に影響を及ぼしているし、私たちの住む日本もまた例外ではなく、多彩な宗教現象が巷にあふれている。この状況のなかで、どうすればキリスト教を宣教することができるかという方法論を自分なりに捜す。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b>            比較宗教学概論では、「人間にとって宗教とは何なのか」を検討する。そして、世界の諸宗教の教義と思想をキリスト教の立場で比較し、総合的に学ぶ。聖書に書かれている諸宗教も検討したい。そして、仏教、キリスト教、イスラームだけでなく、日本の宗教思想や世界中の民族の神話や宗教儀礼等を幅広く学び、宗教学の諸理論に基づき、宗教をキリスト教の立場で捉えるトレーニングを行う。</p> <p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b>            キリスト教を含めて諸宗教の成立過程ならび基本的な教理や思想を明確に知ることができる。特にキリスト教と諸宗教の特徴を把握して、その差を明確に区別することができる。</p>																																	
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>比較宗教とは何か。方法論は何か。キリスト教の立場で</td></tr> <tr><td>2</td><td>キリスト教の成立過程</td></tr> <tr><td>3</td><td>カトリックの思想</td></tr> <tr><td>4</td><td>プロテスタントの思想</td></tr> <tr><td>5</td><td>ユダヤ教の成立過程とキリスト教。旧約聖書から現代まで。</td></tr> <tr><td>6</td><td>インドの宗教。仏教の成立過程とキリスト教①</td></tr> <tr><td>7</td><td>仏教伝播とキリスト教②</td></tr> <tr><td>8</td><td>ヒンドゥー教の成立と伝播</td></tr> <tr><td>9</td><td>聖書に書かれている諸宗教①</td></tr> <tr><td>10</td><td>日本の宗教神道とキリスト教</td></tr> <tr><td>11</td><td>聖書に書かれている諸宗教②</td></tr> <tr><td>12</td><td>聖書に書かれている諸宗教③</td></tr> <tr><td>13</td><td>イスラーム教とキリスト教</td></tr> <tr><td>14</td><td>聖書に書かれている諸宗教④</td></tr> <tr><td>15</td><td>諸宗教とキリスト教</td></tr> </table>				1	比較宗教とは何か。方法論は何か。キリスト教の立場で	2	キリスト教の成立過程	3	カトリックの思想	4	プロテスタントの思想	5	ユダヤ教の成立過程とキリスト教。旧約聖書から現代まで。	6	インドの宗教。仏教の成立過程とキリスト教①	7	仏教伝播とキリスト教②	8	ヒンドゥー教の成立と伝播	9	聖書に書かれている諸宗教①	10	日本の宗教神道とキリスト教	11	聖書に書かれている諸宗教②	12	聖書に書かれている諸宗教③	13	イスラーム教とキリスト教	14	聖書に書かれている諸宗教④	15	諸宗教とキリスト教
1	比較宗教とは何か。方法論は何か。キリスト教の立場で																																
2	キリスト教の成立過程																																
3	カトリックの思想																																
4	プロテスタントの思想																																
5	ユダヤ教の成立過程とキリスト教。旧約聖書から現代まで。																																
6	インドの宗教。仏教の成立過程とキリスト教①																																
7	仏教伝播とキリスト教②																																
8	ヒンドゥー教の成立と伝播																																
9	聖書に書かれている諸宗教①																																
10	日本の宗教神道とキリスト教																																
11	聖書に書かれている諸宗教②																																
12	聖書に書かれている諸宗教③																																
13	イスラーム教とキリスト教																																
14	聖書に書かれている諸宗教④																																
15	諸宗教とキリスト教																																
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>            1. 聖美堂出版(編)『図解宗教学史』大日本印刷株式会社、2008年            2. 棚次正和・山中弘(編)『宗教学入門』、ミネルヴァ書房、2005年</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>            レポート試験、発表など総合的評価。</p>																															

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格	必修/選択	授業担当																																
教会史研究	2			塚本 恵																																
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>キリスト教の成立から、四～五世紀に至る教会の歴史を思想的に取扱い、多様な展開を見せた初期教会史の論争過程についての基礎知識の習得を目指す。特にキリスト教作家たちに対する伝記的関心を持って、その文書資料に直接当たること、その歴史過程を探りたい。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b></p> <p>使徒教父と護教家たち・正統と異端・迫害と背教・三位一体論争・キリスト論争など、カルケドン公会議へと至る歴史過程を理解し、これらについての現代の宣教への適用についても考えてみたい。テキストに沿って、参考文献を指示しつつ講義をする。特に現代の宣教への適用について、質問をするので（あるいは提出して）、それについて討論する。</p> <p><b>[授業修了時の達成（到達目標）]</b></p> <p>正統と異端の問題をはじめ、様々な論争が行われた古代キリスト教の歴史を理解することで、その現代の宣教に対する意義を考えてみるようにする。</p> <p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>序論 教会史の課題と方法</td></tr> <tr><td>2</td><td>キリスト教の背景</td></tr> <tr><td>3</td><td>キリスト教の成立/新約聖書の年代</td></tr> <tr><td>4</td><td>使徒教父たち/新約聖書外典・偽典</td></tr> <tr><td>5</td><td>ローマ帝国とキリスト教/ギリシア弁証家たち</td></tr> <tr><td>6</td><td>初期の異端者たちとカトリック教会の成立</td></tr> <tr><td>7</td><td>異端論駁の開始と北アフリカのキリスト教</td></tr> <tr><td>8</td><td>モナルキア主義/アレクサンドリア学派</td></tr> <tr><td>9</td><td>アリウス論争とニカイア公会議</td></tr> <tr><td>10</td><td>三位一体論争/アタナシウス</td></tr> <tr><td>11</td><td>キリスト論争/コンスタンティノーブル公会議</td></tr> <tr><td>12</td><td>エフェソ公会議/カルケドン公会議</td></tr> <tr><td>13</td><td>アウグスティヌス</td></tr> <tr><td>14</td><td>西方教会と東方教会</td></tr> <tr><td>15</td><td>全体のまとめ ローマ帝国の中で/キリスト論争/三位一体論争/アウグスティヌス</td></tr> <tr><td></td><td>期末試験</td></tr> </table> <p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>E.J.グッドスピード/R.M.グラント校訂『古代キリスト教文学入門』(1994年)、N.ブロックス『古代教会史』(1999年)、菊池栄三・菊池伸二『キリスト教史』(2005年)。</p> <p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>期末試験を60%、宿題(ブック・レビュー)を20%、クラスでの質疑・応答など平常を20%とする。</p>					1	序論 教会史の課題と方法	2	キリスト教の背景	3	キリスト教の成立/新約聖書の年代	4	使徒教父たち/新約聖書外典・偽典	5	ローマ帝国とキリスト教/ギリシア弁証家たち	6	初期の異端者たちとカトリック教会の成立	7	異端論駁の開始と北アフリカのキリスト教	8	モナルキア主義/アレクサンドリア学派	9	アリウス論争とニカイア公会議	10	三位一体論争/アタナシウス	11	キリスト論争/コンスタンティノーブル公会議	12	エフェソ公会議/カルケドン公会議	13	アウグスティヌス	14	西方教会と東方教会	15	全体のまとめ ローマ帝国の中で/キリスト論争/三位一体論争/アウグスティヌス		期末試験
1	序論 教会史の課題と方法																																			
2	キリスト教の背景																																			
3	キリスト教の成立/新約聖書の年代																																			
4	使徒教父たち/新約聖書外典・偽典																																			
5	ローマ帝国とキリスト教/ギリシア弁証家たち																																			
6	初期の異端者たちとカトリック教会の成立																																			
7	異端論駁の開始と北アフリカのキリスト教																																			
8	モナルキア主義/アレクサンドリア学派																																			
9	アリウス論争とニカイア公会議																																			
10	三位一体論争/アタナシウス																																			
11	キリスト論争/コンスタンティノーブル公会議																																			
12	エフェソ公会議/カルケドン公会議																																			
13	アウグスティヌス																																			
14	西方教会と東方教会																																			
15	全体のまとめ ローマ帝国の中で/キリスト論争/三位一体論争/アウグスティヌス																																			
	期末試験																																			

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格 必修/選択	授業担当																														
牧会学概論	2		中江松二																														
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>            実践神学の一部門として、牧師の職務と働きを組織的・神学的に取り扱う。また他の神学諸部門の洞察の精髓を集めて、牧会の職務についての統合された理解を求める。</p>																																	
<p><b>[授業全体の内容と概要]</b>            礼拝共同体としての教会のミニストリー全体の中で、「聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストの体を建てる」働きについての理解を深める。牧会に直接携わる者だけでなく、信徒としてもどのように牧会ミニストリーに参加することができるかを考える。また牧師の諸役割を理解し、教会全体の働きの中に位置づけ、実践に役立つ指針を提供する。</p>																																	
<p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 礼拝共同体としての教会の意義と重要性を理解する。</li> <li>2. 教会の祭司的機能を理解し、牧師の役割、信徒の役割を正しく把握する。</li> <li>3. 牧会職における女性教職の聖書の基盤と意義を学ぶ。</li> <li>4. 牧会におけるバプテスマと洗礼の意義を理解する。</li> <li>5. 牧師の役割と働きを理解し、教会全体としての機能として捉える。</li> </ol>																																	
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <table border="1"> <tr><td>1</td><td>牧会学とは何か、教会を建て上げる機能としての牧会</td></tr> <tr><td>2</td><td>教職とは何か</td></tr> <tr><td>3</td><td>教職への召し</td></tr> <tr><td>4</td><td>按手の意味、</td></tr> <tr><td>5</td><td>牧会職における女性</td></tr> <tr><td>6</td><td>中心的アナロジーとしてのシェパーディング</td></tr> <tr><td>7</td><td>賜物の問題</td></tr> <tr><td>8</td><td>礼拝共同体の牧師</td></tr> <tr><td>9</td><td>バプテスマと聖餐</td></tr> <tr><td>10</td><td>説教の奉仕、教師の働き、信徒を整える働き</td></tr> <tr><td>11</td><td>牧会カウンセリング</td></tr> <tr><td>12</td><td>危機における牧会</td></tr> <tr><td>13</td><td>実践の諸問題</td></tr> <tr><td>14</td><td>教会の運営</td></tr> <tr><td>15</td><td>役員会の運営</td></tr> </table>				1	牧会学とは何か、教会を建て上げる機能としての牧会	2	教職とは何か	3	教職への召し	4	按手の意味、	5	牧会職における女性	6	中心的アナロジーとしてのシェパーディング	7	賜物の問題	8	礼拝共同体の牧師	9	バプテスマと聖餐	10	説教の奉仕、教師の働き、信徒を整える働き	11	牧会カウンセリング	12	危機における牧会	13	実践の諸問題	14	教会の運営	15	役員会の運営
1	牧会学とは何か、教会を建て上げる機能としての牧会																																
2	教職とは何か																																
3	教職への召し																																
4	按手の意味、																																
5	牧会職における女性																																
6	中心的アナロジーとしてのシェパーディング																																
7	賜物の問題																																
8	礼拝共同体の牧師																																
9	バプテスマと聖餐																																
10	説教の奉仕、教師の働き、信徒を整える働き																																
11	牧会カウンセリング																																
12	危機における牧会																																
13	実践の諸問題																																
14	教会の運営																																
15	役員会の運営																																
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>            Thomas C. Oden, <u>PASTORAL THEOLOGY:Essentials of Ministry</u>, Harper &amp; Row, 1983</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>            ① 授業における討議への貢献、②小テストの成績            ② ブックレポート(書物との対話的思考の跡が窺われるものを高く評価する)</p>																															

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格 必修/選択	授業担当
伝道学概論	2		崔 榮九
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>            目的：キリスト教にとって異教の地、日本の宣教（伝道）することを共に考える。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b>            現代日本の伝道の諸問題を取り上げ、聖書の教えに立脚した伝道の神学を学び、ワークショップを通して具体策を考える。</p> <p><b>[授業修了時の達成（到達目標）]</b>            宣教的教会に仕える責任を自覚し、率先して伝道に奉仕する者となる。</p>			
<b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>			
1	日本人は無宗教か？		
2	今、なぜキリスト教か？		
3	伝道の神学－なぜ伝道するのか？Ⅰ		
4	伝道の神学－なぜ伝道するのか？Ⅱ		
5	クリスチャンの五原則、洗礼のための学びと準備		
6	現代日本の伝道の諸問題Ⅰ		
7	現代日本の伝道の諸問題Ⅱ		
8	現代日本の伝道の諸問題Ⅲ		
9	聖書から学ぶⅠ		
10	聖書から学ぶⅡ		
11	聖書から学ぶⅢ		
12	伝道の具体策Ⅰ		
13	伝道の具体策Ⅱ		
14	伝道の具体策Ⅲ		
15	まとめ		
<b>[使用テキスト・参考文献]</b> 聖書、配布プリント、その都度紹介		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> 伝道のためのみことばテスト 授業への貢献度（発表）、期末試験。	

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格	必修/選択	授業担当
N.T.ギリシア語初歩	2			津村春英
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>            新約聖書の言語であるコイナー・ギリシア語文法の初歩の学びである。この学びを通して新約聖書への親しみをさらに覚えることを目指している。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b>            拙著をテキストとして、練習問題は各自に担当して発表してもらう。また、小テストを随時行う。受講者は語形の変化など最小限の暗記が求められる。</p> <p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b>            新約聖書の言語の学びを通して、聖書の言葉のすばらしさを再発見することを期待する。尚、専攻科 (神学専攻) では引き続き、中級 (ギリシア語講読) が用意されている。</p>				
<b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>				
1	コイナー・ギリシア語	16	前半の復習	
2	新約聖書ギリシア語アルファベット	17	形容詞 1	
3	音節、アクセント、句読符	18	形容詞 2	
4	小まとめとテスト 1	19	形容詞 3	
5	動詞 1	20	代名詞	
6	動詞 2	21	小まとめテスト 4	
7	動詞 3	22	分詞 1	
8	動詞 4	23	分詞 2	
9	動詞 5	24	分詞 3	
10	小まとめとテスト 2	25	接続法 1	
11	名詞 1	26	接続法 2	
12	名詞 2	27	不定法	
13	名詞 3	28	命令法	
14	名詞 4	29	希求法	
15	小まとめとテスト 3	30	総復習と最終確認テスト	
<b>[使用テキスト・参考文献]</b> 津村春英『新約聖書ギリシア語の入門』			<b>[単位認定の方法及び基準]</b> 小テスト、クラスの発表、筆記テスト	

授業のタイトル (科目名) 神学英語	単位数 2	免許・資格 必修/選択	授業担当 石黒則年
-----------------------	----------	-------------	--------------

**[授業の目的・ねらい]**

英語による文献を読む力を身に付けるために、聖書物語を発展させたテキストを使用し、神学用語の習得にも心がける。

英語で表現された神学の基本的な術語に親しむために、単語の丸暗記ではない内容把握を理解が求められる。そのためには神学全般の基礎知識を身に付けることも同時に求められる。

**[授業全体の内容と概要]**

テキストの予習を前提として、順次、割り当てられたテキストの箇所を翻訳させる。内容について神学的用語などについての解説を加える。必要に応じて、一般英文法の説明も行う。

**[授業修了時の達成 (到達目標)]**

英語の学びを進めながら、同時に、聖書の内容とクリスチャン生活の基礎的な理解もめざす。

**[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]**

1	テキストと著者の紹介	16	第7課：その2
2	序論	17	第8課：その1
3	第1課：その1	18	第8課：その2
4	第1課：その2	19	第9課：その1
5	第2課：その1	20	第9課：その2
6	第2課：その2	21	第10課：その1
7	第3課：その1	22	第10課：その2
8	第3課：その2	23	第11課：その1
9	第4課：その1	24	第11課：その2
10	第4課：その2	25	第12課：その1
11	第5課：その1	26	第12課：その2
12	第5課：その2	27	第13課：その1
13	第6課：その1	28	第13課：その2
14	第6課：その2	29	第14課：その1、その2
15	第7課：その1	30	第15課：その1、その2
	学期末テスト		学年末テスト

**[使用テキスト・参考文献]**

Harry N. Wendts, The Divine Drama: Biblical Narrative, Crossways International をテキストとする

**[単位認定の方法及び基準]**

毎回の割り当て箇所の翻訳を50%、学期末・学年末の筆記テストの成果を50%として、平均合算して総合評価とする。

授業のタイトル (科目名)	単位数	免許・資格 必修/選択	授業担当
宣教と文化	2		眞鍋 孝
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>種々の文化圏の中で福音宣教、教会形成が行なわれていく時、既に存在し人々の生活の基盤と価値観を与えていた文化はどのようにになるのか、福音が変容されざるをえないのか、等の問題意識を掘り下げるのがこのクラスのねらいである。具体的には、ある文化が福音宣教の前進で福音と接触する時、何が起るのかを聖書の啓示から、また、教会史(特に日本教会史)や実際的な世界宣教の実例から学ぶ。</p>			
<p><b>[授業全体の内容と概要]</b></p> <p>生徒にクラスの概要を説明した後、①ローザンヌ宣教シリーズの「福音と文化-ウィローバンク・レポート」を用いて福音と文化のかかわりの諸問題を総括する、②宣教学者(ヘッセルグレーブ)の書物を通して、宣教の文化脈化の学びをする、③日本人による過去の海外宣教における宣教の文化脈化の状況を「日本人による海外宣教の歩み」より探る、④ウィクリフ聖書翻訳協会の働き(教師自身の体験)から問題意識を深める、⑤新約聖書の啓示から福音と文化の接触についてそれまでの学びを総合するような分析をする、⑥学生にリーディングの宿題によって更に学びを深めてもらい、それを最後に互いに分かち合ってもらう。</p>			
<p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b></p> <p>クラスの学びを通して、それぞれの学生が自分自身が身を置いている社会の文化の存在にはっきり気付いて欲しいと思う。そして、クリスチャンとしての証し、また、将来の宣教の働き、教会形成の働きにおいて、クラスで学ぶ原則を個々が効果的に用いるようになることを願う。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p>			
1	イントラダクション、シラバスの説明を全体的にする、互いの自己紹介		
2	「福音と文化-ウィローバンク・レポート」(ローザンヌ宣教シリーズ②)の1~4章の学び		
3	上掲書の5~7章の学び		
4	上掲書の8~9章の学び		
5	上掲書の学びの総復習を行い、生徒の理解を深める		
6	ヘッセルグレーブ著「今日の選択、明日の選択」の7章から宣教の文化脈化について学ぶ		
7	中村敏著「日本人による海外宣教の歩み」より乗松雅休と渡瀬常吉のアプローチを見る		
8	上掲書の両者の比較をして理解を深める		
9	ウィクリフ聖書翻訳協会の言語と文化のアプローチを学ぶ		
10	教師自身のクワンガ語聖書翻訳の体験を通して学ぶ		
11	新約聖書の「使徒の働き」から福音と文化について学ぶ		
12	新約聖書のパウロ書簡から福音と聖書について学ぶ		
13	リーディングアサイメントの発表①		
14	リーディングアサイメントの発表②		
15	リーディングアサイメントの提出、全体的復習		
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ローザンヌ宣教シリーズ②「福音と文化-ウィローバンク・レポート」</li> <li>・ヘッセルグレーブ「今日の選択、明日の宣教」</li> <li>・中村敏「日本人による海外宣教の歩み」</li> <li>・眞鍋孝「文書釈義論」</li> <li>・新約聖書</li> </ul>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>毎回のレポート提出の内容吟味、クラス内での学びの理解度の判定、リーディングアサイメントのレポートの内容吟味、等を参考にして、成績を出し60%以上の学生が単位取得者となる。</p>	

<b>授業のタイトル (科目名)</b> キリスト教文学	<b>単位数</b> 2	<b>免許・資格 必修/選択</b>	<b>授業担当</b> 森嶋邦彦
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 日本の近代、現代の作家を取り上げる。まず個々の作品を文芸作品として読んだ上で、文学と宗教の関わりを考えてみたい。そして、近代文学とキリスト教、現代作家とキリスト教というテーマのもとに問題提起を行う。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b> キリスト教と近代の問題を、島崎藤村、有島武郎の思想と作品に確かめてみたい。それらの問題を確かめた上で、遠藤周作を中心に読む。また近代文学に関する評論を読んでキリスト教が関わる近代文学のテーマを広げたい。</p> <p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b> 作品研究の発表を求める。各自の読後感を中心にディスカッションする時間を設けたい。</p>			
<b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>			
1	授業の説明 参考図書の指示 評価について		
2	近代文学とキリスト教①近代文学の発生		
3	近代文学とキリスト教②島崎藤村「藤村詩集」と賛美歌、「桜の実の熟する時」		
4	③有島武郎とキリスト教「宣言」		
5	④有島武郎とキリスト教「カインの末裔」など		
6	⑤太宰治と聖書		
7	⑥太宰治と聖書「駈込み訴え」など		
8	現代作家とキリスト教①遠藤周作 初期評論「神々と神と」など		
9	②遠藤周作「白い人」「黄色い人」		
10	③遠藤周作「海と毒薬」		
11	④遠藤周作「沈黙」		
12	⑤遠藤周作「侍」		
13	⑥遠藤周作「深い河」		
14	三浦綾子の文学と風土①「道ありき」永武彦と聖書		
15	②「氷点」		
<b>[使用テキスト・参考文献]</b> 授業の最初に指示する。		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> レポートで評価する	

授業のタイトル (科目名) アジア文化史	単位数 2	免許・資格 必修/選択 キリスト教文化コース(必) 神学基礎コース(選)	授業担当 石黒則年
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>近年、アジア諸国に対する関心が高まってきた。貿易輸出額では中国がアメリカや日本を抜いて第1位、輸入額ではアメリカについて第2位となった。韓国の映画やテレビドラマは「韓流ブーム」を引き起こし、多くの日本人の関心を呼んでいる。と同時に、日本国内にはアジア諸国から非難されるような国粹主義者たちの発言も声高になって来ている。これらの諸々の事実の背後にひそむ問題を明らかにする。韓国からトルコまでのアジア全域の国々の様子を概観する。</p> <p><b>[授業全体の内容と概要]</b></p> <p>授業は、プリントを用いての講義が主体で、総論的になされる。アジア全体の問題が把握できるように具体性に留意した授業となるように心がける。時にはビデオ資料も活用する。</p> <p><b>[授業修了時の達成 (到達目標)]</b></p> <p>アジア諸国に関連した問題に関心を持つようになり、今後の日本がどのように対処すべきかを考えながら、「アジア研究演習」の履修に向けて、基礎的な知識が得られるようにする。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p>			
1	「国際」の概念と「アジア」の領域にある国々について、「課題」の配布		
2	第2次世界大戦とその影響について		
3	冷戦時代の構造と、その後の動向について		
4	朝鮮半島のもつ文化と課題について		
5	中国文明と日本文化の関わりの概観		
6	現代の中国の躍進と、日本と関わる問題点		
7	ASEAN諸国：その1 (シンガポール、フィリピン、タイなど)		
8	ASEAN諸国：その2 (インドネシア、マレーシアなど)		
9	ASEAN諸国：その3 (インドシナ半島の国々など)		
10	インドとその周辺諸国 (パキスタンとバングラデッシュ)		
11	イスラム諸国の動向：その1 (主としてイラン、イラク、シリアなど)		
12	イスラム諸国の動向：その2 (ヨルダン、サウジアラビアなど)		
13	イスラエルと中東問題について		
14	トルコなどの動向		
15	まとめ：アジアの課題		
	期末レポートの提出		
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>テキストは指定しないが、『朝日キーワード2010』朝日新聞社、2010、『時事ニュースワード2010』時事通信社を参考書として推薦する。</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>期末の試験代用レポートを80%、授業中の質問や討論への積極的な参加を20%として合算して評価する。</p>	